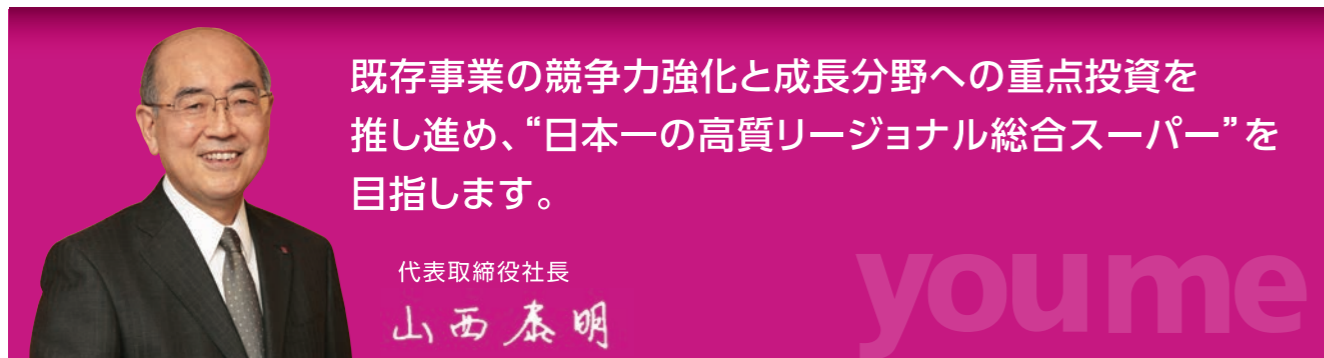


第58期 報告書

2018年3月1日 ▶ 2019年2月28日



株式会社 **イズミ**



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期におけるわが国経済は、緩やかな景気回復が続いた一方、相次いだ自然災害や世界経済の先行き不透明感に加え、賃金の伸びが不十分などの影響から、生活者の消費意欲は低調に推移しました。

このような状況の下、当社グループでは“日本一の高質リージョナル総合スーパー”を目指す「中期経営計画」を策定し、既存事業の競争力の更なる強化を図るとともに、成長分野への経営資源の重点投入を推し進め、これまで以上に積極的な成長戦略、競争力強化、人材育成の施策を打ち出しました。

また「未来創造推進部」を設置し、販売促進、お客様サービス、店舗業務の生産性改善、情報システムを一気通貫にデジタル化することを通じて、将来のあるべき小売業の姿を再定義する取り組みをスタートさせました。

中核事業である小売事業では、リアル店舗としての付加価値提案力を高めるよう、商品面では品質・価格両面で競争力のあるMD戦略“いいものを安く”の領域拡大を図り、既存領域の掘下げを推し進め、お客様満足の追求に努めてまいりました。

店舗面では、「平成30年7月豪雨」により被害を受けた広島・岡山県内の計3店舗のうち、2店舗は早期に営業を再開し1店舗を閉店する一方、西友より譲り受けた2店舗を「ゆめタウン下松」「ゆめタウン姫路」として開業するとともに、食品スーパー業態の「ゆめマート城野」「ゆめマート久米」「ゆめマート木太」の3店舗を計画どおり開業しました。さらに既存店活性化として「ゆめ

タウン徳島」「ゆめタウン行橋」をリニューアルオープンしました。

また、株式会社セブン&アイ・ホールディングスとの間で業務提携に関する合意書を締結し、マスメリットの獲得やドミナントの拡充に向けて協議を開始しました。

小売周辺事業では、電子マネー「ゆめか」やショッピングクレジットの新規会員獲得や、入居テナント店での取扱い拡大により取扱高増加を図りました。また10月からは当社グループ店舗とセブンイレブン店舗において「ゆめか」と「nanaco」の相互利用を開始し、小売事業への集客及び店舗間の相互送客を促進するとともに、レジ業務の生産性改善に繋げました。

今後の見通しにつきましては、海外経済の減速や消費増税の影響などにより家計への厳しい状況が続くことから、個人消費は引き続き低調なことが想定され、人手不足も深刻な課題となっています。

このような状況の下、当社グループでは経営環境の変化に柔軟に対応しながら、より収益性を重視した成長戦略を推進し、店舗展開においてイトーヨーカ堂より引き継いだ「ゆめタウン福山」を2019年初夏にグランドオープンさせるとともに、「ゆめマート日田」「ゆめマート三田尻」など食品スーパー業態で4店舗を新規出店する予定です。

これらにより、お客様の満足を実現するとともに、地域ドミナントの更なる拡大・深耕を図っていくことで、経営効率を高め、より一層の企業成長に繋げてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

進化し、深化する「youme」を
地域になくしてはならない存在。私たちは「地域一番店」を目指します。

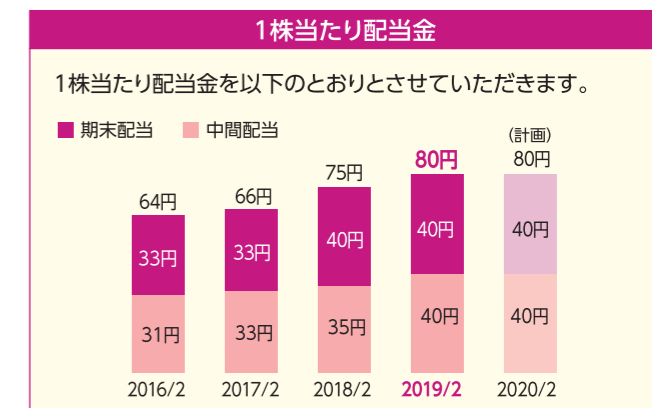
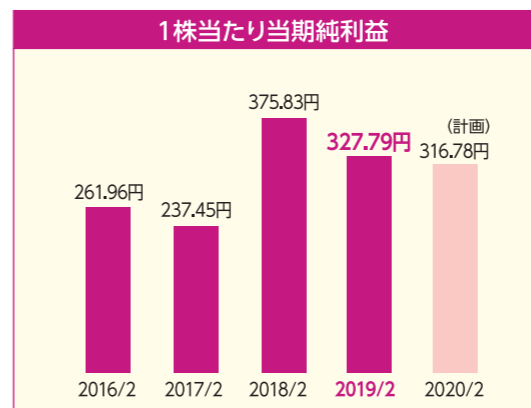
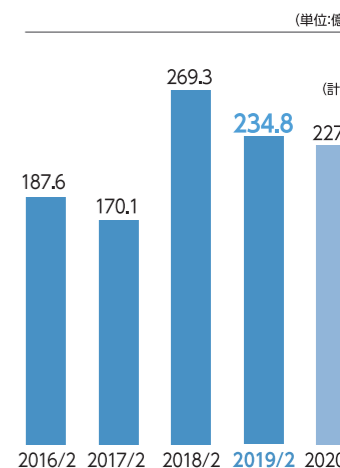
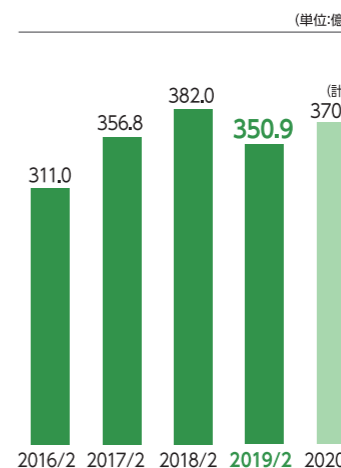
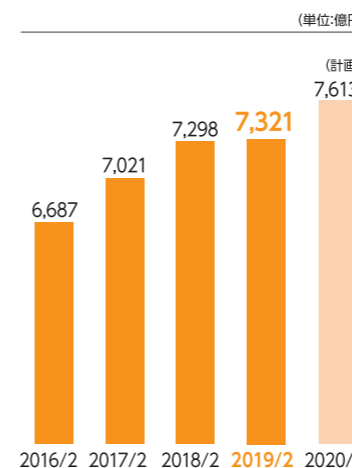


連結財務ハイライト

営業収益	
7,321 億円	前年同期比 100.3 %

経常利益	
350.9 億円	前年同期比 91.9 %

親会社株主に帰属する当期純利益	
234.8 億円	前年同期比 87.2 %



新規出店の拡大戦略から、収益性重視の成長戦略へ！ 中期経営計画の方向性を見直し。

イズミグループは、第58期より中期経営計画を推進していますが、恒常的な人材不足や建築コストの上昇などの社会的な環境変化が激しく、より収益性を重視する成長戦略を実現するために計画内容の見直しを行いました。
新規出店だけでなく譲渡・継承物件による出店や既存店の活性化など地域や市場にあわせてより柔軟に収益力を高めていく成長戦略の考え方をご報告します。

中期経営計画 5つの新たなテーマ

1 成長戦略

1 新規出店戦略

- GMS物件の積極的な出店
- SMIは物件を厳選した出店
- 不採算店舗のスクラップ

2 譲受・継承物件への出店

- 個別物件の譲受による活性化事例
- Win-Winの関係での提携は継続

3 優良企業との提携

- エリア内優良企業との提携推進

4 人材育成の強化

1 先進他社より学ぶ

- 先進他社への研修留学の推進
- 各階層別研修の拡充

2 従業員の能力開発

- 成長機会の充実とOJTの強化
- 自宅通勤正社員制度の導入
- 動画配信システムによる教育推進

2 既存店活性化計画

1 既存店の活性化

- 大型店の大規模活性化計画
- 中型店の活性化
- 小型店のフォーマットの確立

大型店を5店舗、中小型店合わせて約30店舗を毎年計画

2 地域に根ざした魅力ある店づくり

- お客様の声を聞く活動の継続

3 競争力の強化

1 “いいものを安く”の実現

- 高品質商品の展開を拡大強化
- 地域に密着した品揃えの強化
- ギフト関連の強化
- 催事・イベントの強化
- 株式会社セブン&アイ・ホールディングス様との共同取り組み
- 中小型店のMD改革

数値目標

2020年度

【営業収益】 8,200億円

【営業利益率】 5.4%

2022年度

【営業収益】 9,000億円

【営業利益率】 6%

成長戦略/譲渡・継承物件による出店

譲渡・継承物件を活性化させドミナント戦略を推進します。

既存商業施設や提携企業による物件を、イズミ流に活性化リニューアルすることで地域商業施設としての価値を高め、ドミナント戦略をさらに推進します。

ゆめタウン姫路

兵庫県姫路市

グランドオープン! [2018年12月1日]

生まれ変わって、すべてが新しい「ゆめタウン姫路」へ!

JR姫路駅から約3kmで国道2号線のすぐ近くという好立地に、2018年12月に「ゆめタウン姫路」がオープンしました。
この店舗は西友による「ザ・モール姫路」というGMSを継承した施設で、イズミが「Just right Cozy = ちょうどいい心地よさ」をコンセプトに、三世代でゆったりと楽しめる新しいショッピング+コミュニティー空間として、全面リニューアルしました。
かつてないワクワクと感動をたくさん詰め込むことで、地域や暮らしに新しい価値を提供しています。



1F 活気ある毎日
2F **「Plaza」**



3F 三世代で楽しく集う
4F **「Living」**



5F アクティブに日常を彩る
6F **「Terrace」**



TOPICS

流通業界の専門誌「ダイヤモンド・チェーンストア」の表彰で、ゆめタウン姫路が商業集積部門で第5位に選ばれました。
新規出店以外で選出されたことが業界で話題となりました。



株式会社ダイヤモンド・リテイルメディア
「ダイヤモンド・チェーンストア」誌 2019年4月1日号

店舗概要 ・敷地面積/約40,800㎡・店舗面積/約28,200㎡・駐車台数/約1,100台

ゆめタウン福山

広島県福山市

オープン予定! [2019年初夏]

20年間愛されてきた人気店からバトンを受けて再スタート!

「ゆめタウン福山」は20年間地域の皆さまに愛されてきたイトーヨーカ堂の「イトーヨーカドー福山店」からバトンを受け、新たな核テナントとしてリニューアルオープンいたします。イズミが培ってきた「ゆめタウン業態」のノウハウを活かし、人気のある新規専門店を多彩に導入するとともに、地域の皆さまから日常的に愛されるお店をめざします。

【店舗概要】・店舗面積/約20,000㎡・駐車台数/約2,700台



既存店活性化計画

既存店の活性化も積極的に進めます。

好調な大型店を中心に、順次大規模リニューアルを行うことで、店舗のバリューアップを図ります。

ゆめタウン光の森

熊本県菊池郡

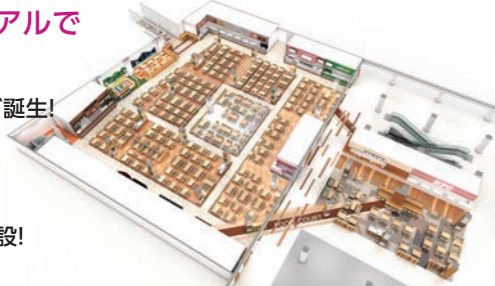
第1弾 リニューアルオープン! [2019年3月20日]

「買い物が“もっと”楽しくなる」よう、魅力と価値を高めます!

「ゆめタウン光の森」は、2004年(平成16年)に熊本県菊池郡に誕生して以来、16年間にわたり地域に密着した店舗として愛されてきました。今回は「買い物が“もっと”楽しくなる」をテーマにした第1弾の改装オープンで、熊本県初出店の専門店を誘致するとともに、直営売場も魅力的に変身、快適なショッピング環境を創造するなど、より集客力・リピート力の高い店舗にリニューアルしました。

2019年夏、第2弾リニューアルでさらにパワーアップ!

- ◎熊本県最大の巨大フードコートが誕生!
(座席数850席→1,000席へ)
- ◎南館1階を大改装!
西日本初出店の人気店も登場!
- ◎JR光の森駅前に立体駐車場を新設!
駐車台数も大幅拡大!



店舗概要 ・敷地面積/約78,350㎡・店舗面積/約39,900㎡・駐車台数/約3,300台

ゆめタウン高松

香川県高松市

グランドオープン予定! [2019年11月]

四国一、お客さまの喜びを追求したリニューアルをめざして!

「ゆめタウン高松」は、1996年(平成8年)の開業以来、香川県内で一番の売場面積を持つSCとして愛されています。今回の大規模リニューアルでは、その価値と存在感をさらに高めるよう「四国一、お客さまの喜びを追求したリニューアル」をテーマにバリューアップを計画。フードコートの大規模スケールアップとともに、若者をターゲットにした集客力の高いテナントを誘致するなどして、四国一のおしゃれなSCへと生まれ変わります。



店舗概要 ・敷地面積/約61,000㎡・店舗面積/約54,600㎡・駐車台数/約3,150台

成長戦略/新規出店戦略

地域や市場の特性をふまえて新規出店を行います。

GMS物件の積極的な出店を続けるとともに、SMIに関しては地域一番店として顧客満足度を高め、利益の拡大が見込める物件を厳選し出店していきます。

ゆめマート久米

2018年11月6日
OPEN!

岡山県岡山市

岡山市中心部と倉敷市を結ぶ主要道沿いの好立地に出店!

「ゆめマート久米」は、岡山市中心部に近く交通の便利な住宅密集地に出店しました。当社直営の「食品スーパー」や、豊富な品揃えの化粧品・ビューティーケアコーナー、イートインスペースなど、毎日の生活に便利な機能をコンパクトに集約したワンストップショッピングを提供しています。



店舗概要 ・敷地面積/約9,700㎡・店舗面積/1,895㎡
・駐車台数/155台

ゆめマート木太

2018年11月20日
OPEN!

香川県高松市

四国エリアで初のゆめマート型店舗で出店!

「ゆめマート木太」は、四国の大動脈といえる国道11号線に面した便利な立地で、周囲は高松市でも有数の住宅密集地です。新鮮な生鮮食品や、バラエティ豊かな惣菜、普通の生活に欠かせない日用品を多彩に品揃えし、毎日利用しやすくなるゆめマート型店舗として、四国でのドミナント戦略を加速していきます。



店舗概要 ・敷地面積/約7,800㎡・店舗面積/1,880㎡
・駐車台数/約120台

目標達成に向けて、中国・四国・九州・関西地区で、次々にオープンしていく予定です!

ゆめマート日田

2019年4月12日
OPEN!

大分県日田市

ゆめマート業態では大分県初出店!



【店舗概要】・店舗面積/2,350㎡・駐車台数/130台

ゆめマート三田尻

2019年4月23日
OPEN!

山口県防府市

防府市南部の交通至便なエリアに出店!



【店舗概要】・店舗面積/1,540㎡・駐車台数/95台

ゆめマート南小野田

2019年5月21日
OPEN予定

山口県
山陽小野田市

山口県内14店舗目の出店でドミナント戦略を推進!

【店舗概要】・店舗面積/1,880㎡・駐車台数/114台

ゆめマート青山(仮称)

2019年夏
OPEN予定

福岡県北九州市
八幡西区

北九州市の交通利便性の高い閑静な住宅地に出店!

【店舗概要】・店舗面積/約2,040㎡・駐車台数/142台



リアル店舗とネットやデジタルを融合させて新規の需要を創出する

「スマートゆめタウン構想」を推進

イズミでは、ネットやデジタル技術を積極的に活用してお客さまとあらゆる接点を融合する「スマートゆめタウン」構想を進めています。

この構想では、例えばキャッシュレス決済やレジレス精算の実現、フードコートでのアプリ事前予約、AIを使った接客対応など、お客さまとリアル店舗との新しい融合を提案することで、お客さまは利便性と楽しさを向上させつつ、店舗での効率化や売上向上を同時に推進しようとする取り組みです。この構想をもとに、ネットやデジタルを使ったさまざまな取り組みを多方面で開始しています。



■ タブレット付きショッピングカート「ゆめピ! Powered by ショピモ」

タブレット端末がついたショッピングカートで、タブレットの画面には売場MAPとともに、本日のお買い得商品、旬のおすすめ食材などの特選情報が、お客さまの移動にあわせてタイミングよくあらわれます。これによりお客さまは、より楽しくおトクにショッピングができます。



■ お客さま自身で簡単らくらく決済 「セミセルフレジ」

食品売場でのレジの混雑を解消するため、一部の店舗からセミセルフレジの導入を進めています。これは、商品のスキャンをレジスタッフが行い、精算はお客さま自身が専用の精算機で行うシステムです。レジ1台につき複数の精算機がついているため、土日や夕方など混雑時にレジに並ぶ時間短縮が可能になります。



■ AIによる対話式接客システム 見習い中「メーちゃん」(チャットボット)

お店の売場案内や特売情報を、チャット形式の会話で提供するAI式の接客システム「メーちゃん」の試験運用を開始しました。これは専用サイトで売り場や料理レシピを質問すれば、画面上で「メーちゃん」が答えてくれるもの。AI技術を使っているので、質問の件数が増えるほど、答えの精度も高まります。



家族三世代に愛される店づくりをめざす「ゆめタウン」

新イメージキャラクターに 関根勤さん・麻里さんを起用

2019年3月よりゆめタウンのイメージキャラクターにタレントの関根勤さん・関根麻里さんを起用いたしました。実際の親子である関根勤さん・麻里さんを起用することにより、ゆめタウンのターゲットである「三世代」を表現し、随時、新聞・テレビ・インターネットなどの各種広告宣伝・店内の装飾物等で、ゆめタウン・ゆめマート・イズミの魅力を積極的にPRしていきます。今まで以上に、家族全員が笑顔で楽しく過ごせるような空間づくりをめざし、三世代の方でにぎわうお店となるよう、今後も地域のお客さまに愛されるお店づくりに関根勤さん・麻里さんと共に作り上げていきます。



ともに「夢」を育てるイズミグループ

株式会社 ゆめmart熊本 (旧:株式会社ゆめmart)

買い物しやすい売場の提供と、お客様ニーズの変化に対応した品ぞろえを提供してまいります。

株式会社ゆめmartは、「株式会社ゆめmart熊本」に社名変更しました。ゆめmart島崎は熊本城北西にある住宅街に立地し、2018年12月に大幅なリニューアルを行いました。イズミグループとして培ってきた売場づくりのノウハウと、出店地域の状況に即した商品提供で、お買い物が楽しくなるとご好評をいただいております。また、ゆめmart宇土においては、簡単にお魚を食したいお客様のご要望に応えるため「鮮魚惣菜」に取り組みました。こちらもお好評をいただき、取扱い店舗を増やす計画です。



株式会社 ゆめmart北九州 (旧:株式会社スーパー大栄)

(株)ユアーズの14店舗承継し新体制スタート。北九州山口地区 No.1 SMを構築します。

イズミグループとして同一地域内での店舗運営を一元化することによる経営効率と体制強化を目的に、2019年3月1日、九州・山口北西部地区の(株)ユアーズの14店舗を当社が承継することになりました。経営資源を効率的に運用し、より一層地域密着型の店舗運営が可能となり、店舗競争力が高まるとともにコスト削減が期待できます。また、同日に地域のお客様のご期待に沿える魅力ある店舗づくり及び店舗価値向上の姿勢を明確にするため、「株式会社ゆめmart北九州」へ社名変更しました。



株式会社 ユアーズ

中国地方No.1の高質スーパーマーケットを目指します。

「くらし応援宣言」をテーマに、「良品」「価格」「楽しさ」「快適」の4項目のコンセプトで運営しています。特に「良品(提供する価値)」では、健康・即食簡便・地元応援の3分野に注力しており、アバンセkie広島駅店と連携し、アバンセの品質基準・品揃えでの広島フェアを開催するなど、既存店の強化・活性化を進めています。今後も様々なライフスタイルにしっかりと対応できる魅力的なお店づくりを目指します。



アバンセkie広島駅店

イズミグループは、小売事業を中核とし、無駄のないスリムなグループ構造を維持すると同時に、その他関連事業とのシナジー効果を追求してまいります。各グループ企業が、それぞれの特性を活かしつつ、積極的に事業展開することで、お客様に新たな驚きと感動をお届けしてまいります。

株式会社 ゆめカード

新サービスを拡充していくことで利便性を向上させ、新しい層の会員拡大につなげます。

新しいサービスを展開していくことで新規会員の拡大につなげてまいります。ゆめかについては、ゆめタウン以外での利用先として、セブン-イレブンでの利用をスタート。ゆめかの利便性向上から新たな会員拡大にもつながっています。クレジットに関しては「安心・安全・利便性」をキーワードにアップルペイに対応。2019年はGoogleペイにも対応予定。また国際的なセキュリティ基準であるPCIDSSの事業者認定を受けております。



株式会社 イズミテクノ

「廿日市市スポーツ施設」の指定管理をスタート!

2019年4月1日より5年間、廿日市市スポーツセンター、廿日市市サッカー場、廿日市市北部の佐伯総合運動公園の3施設の維持管理と運営をスタートしました。びんご運動公園、東広島運動公園に続きイズミテクノが共同企業体の代表会社として指定管理者となる3つ目のスポーツ施設となります。ゆめタウン廿日市の近くに位置し、店舗での各種運動イベントなどを通して、地域に愛されるスポーツ施設を目指し活動していきます。



イズミ・フード・サービス 株式会社

「お好み一番地」ゆめタウン新店に続々オープン! 広島のお好み焼き文化を広げてまいります。

2018年12月1日オープンのゆめタウン姫路、2019年2月5日オープンのゆめタウン下松に、それぞれ「お好み一番地」を出店いたしました。両店舗とも売上は順調に推移しており、特に関西初出店となるゆめタウン姫路においても広島焼きがご好評をいただいております。今後も、広島のお好み焼き文化を広めるとともに、お客様に喜んでいただけるお店づくりに取り組んでまいります。



業績ハイライト

営業収益

7,321 億円

前年同期比
100.3%

経常利益

350.9 億円

前年同期比
91.9%

親会社株主に帰属する当期純利益

234.8 億円

前年同期比
87.2%

連結決算の推移

単位:百万円

	2016年2月期	2017年2月期	2018年2月期	2019年2月期	2020年2月期計画
営業収益	668,784	702,121	729,857	732,136	761,300
前期比	115.4%	105.0%	104.0%	100.3%	104.0%
営業利益	31,912	35,670	38,487	35,273	37,400
前期比	105.2%	111.8%	107.9%	91.7%	106.0%
経常利益	31,102	35,688	38,208	35,099	37,000
前期比	104.5%	114.7%	107.1%	91.9%	105.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,766	17,015	26,932	23,488	22,700
前期比	108.1%	90.7%	158.3%	87.2%	96.6%
総資産	468,026	476,885	479,867	485,173	—
純資産	157,851	171,963	194,851	211,546	—
1株当たり当期純利益	261.96円	237.45円	375.83円	327.79円	316.78円
1株当たり純資産	2,060.44円	2,240.66円	2,553.14円	2,789.58円	—

単体決算の推移

単位:百万円

	2016年2月期	2017年2月期	2018年2月期	2019年2月期	2020年2月期計画
営業収益	609,032	648,030	683,850	686,991	717,900
前期比	109.3%	106.4%	105.5%	100.5%	104.5%
営業利益	28,212	30,222	32,017	29,141	31,000
前期比	108.9%	107.1%	105.9%	91.0%	106.4%
経常利益	27,355	30,139	31,918	29,177	30,800
前期比	109.2%	110.2%	105.9%	91.4%	105.6%
当期純利益	17,811	14,438	23,370	20,466	19,400
前期比	120.7%	81.1%	161.9%	87.6%	94.8%
総資産	371,093	385,727	392,065	414,350	—
純資産	123,302	133,406	151,834	166,105	—
1株当たり配当金	64.00円	66.00円	75.00円	80.00円	80.00円

連結財務諸表

[連結]貸借対照表

単位:百万円

	前期 2018.2.28	当期 2019.2.28		前期 2018.2.28	当期 2019.2.28
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	91,062	94,734	流動負債	122,220	113,482
現金及び預金	8,410	8,136	支払手形及び買掛金	34,649	31,275
受取手形及び売掛金	37,245	39,784	短期借入金	24,670	25,746
商品及び製品	28,047	28,355	1年内返済予定の長期借入金	28,616	21,264
仕掛品	81	22	未払金	7,801	10,415
原材料及び貯蔵品	452	558	未払法人税等	8,577	4,777
繰延税金資産	2,569	2,569	賞与引当金	2,028	2,132
その他	15,081	15,890	役員賞与引当金	16	10
貸倒引当金	△ 827	△ 584	ポイント引当金	2,436	2,558
固定資産	388,805	390,439	商品券回収損失引当金	145	166
有形固定資産	333,548	338,121	資産除去債務	—	130
建物及び構築物	383,874	393,145	その他	13,278	15,005
減価償却累計額	△220,584	△230,168	固定負債	162,794	160,144
建物及び構築物(純額)	163,290	162,976	長期借入金	118,581	115,912
機械装置及び運搬具	8,681	9,445	リース債務	52	11
減価償却累計額	△ 5,878	△ 6,304	長期預り敷金及び保証金	23,813	24,008
機械装置及び運搬具(純額)	2,803	3,141	役員退職慰労引当金	1,719	2,176
土地	159,178	162,745	利息返還損失引当金	85	102
リース資産	445	382	退職給付に係る負債	7,777	8,050
減価償却累計額	△ 333	△ 337	繰延税金負債	2,592	1,631
リース資産(純額)	111	45	資産除去債務	7,784	7,914
建設仮勘定	439	1,607	その他	386	336
その他	42,160	42,161	負債合計	285,015	273,626
減価償却累計額	△ 34,434	△ 34,557	(純資産の部)		
その他(純額)	7,725	7,604	株主資本	181,795	199,367
無形固定資産	13,545	12,177	資本金	19,613	19,613
のれん	5,263	3,958	資本剰余金	22,247	22,247
その他	8,281	8,219	利益剰余金	139,951	157,530
投資その他の資産	41,711	40,140	自己株式	△ 18	△ 25
投資有価証券	11,390	10,396	その他の包括利益累計額	1,161	529
長期貸付金	1,625	1,584	その他有価証券評価差額金	1,580	737
繰延税金資産	5,414	5,999	退職給付に係る調整累計額	△ 418	△ 208
差入敷金及び保証金	18,024	17,540	非支配株主持分	11,894	11,649
その他	5,799	5,180	純資産合計	194,851	211,546
貸倒引当金	△ 543	△ 559	負債純資産合計	479,867	485,173
資産合計	479,867	485,173			

総資産 4,851億円
前期末比 ▶ 53億円増加

・当期の設備投資額は21,507百万円であり、これは主に店舗新設等によるものです。有形固定資産は、減価償却実施後で4,572百万円増加しました。
・受取手形及び売掛金は、クレジット取扱高の増加等により2,539百万円増加しました。

負債 2,736億円
前期末比 ▶ 113億円減少

・支払手形及び買掛金は、信販会社のシステム障害に伴う未請求残高に対する当期の決済等で3,373百万円減少しました。
・未払法人税等は、課税所得の減少等により3,800百万円減少しました。
・短期借入金及び長期借入金は、8,945百万円減少しました。

純資産 2,115億円
前期末比 ▶ 166億円増加

・利益剰余金は、内部留保の上積みにより17,579百万円増加しました。
・これらの結果、自己資本比率は41.2%となり、前期末の38.1%に比べて3.1ポイント上昇しました。

連結財務諸表

[連結] 損益計算書

単位:百万円

	前 期 2017.3.1~2018.2.28	当 期 2018.3.1~2019.2.28
営業収益	729,857	1 → 732,136
売上高	696,266	697,679
売上原価	543,206	544,107
売上総利益	153,059	153,571
営業収入	33,591	34,457
営業総利益	186,651	188,028
販売費及び一般管理費	148,163	152,754
営業利益	38,487	35,273
営業外収益	1,562	1,518
受取利息及び配当金	242	258
仕入割引	299	299
債務勘定整理益	130	108
持分法による投資利益	48	35
違約金収入	163	191
その他	677	626
営業外費用	1,841	1,692
支払利息	1,094	919
支払補償費	159	160
その他	586	613
経常利益	38,208	2 → 35,099
特別利益	2,443	1,480
固定資産売却益	501	55
投資有価証券売却益	252	0
補助金収入	1,656	1,112
保険金収入	5	309
その他	26	3
特別損失	1,448	3,085
固定資産売却損	49	27
固定資産除却損	464	313
減損損失	597	654
災害による損失	197	360
復興寄付金	—	450
出資金評価損	—	1,029
その他	139	248
税金等調整前当期純利益	39,204	33,495
法人税、住民税及び事業税	12,248	10,418
法人税等調整額	△ 345	△ 523
法人税等合計	11,902	9,894
当期純利益	27,301	23,600
非支配株主に帰属する当期純利益	369	111
親会社株主に帰属する当期純利益	26,932	3 → 23,488

1 営業収益 7,321 億円 前期比 ▶ 100.3%

営業収益のうち、売上高は前期比1,412百万円(0.2%)増加し、697,679百万円となりました。また、営業収入は前期比865百万円(2.6%)増加し、34,457百万円となりました。これは、既存店売上が伸び悩んだ一方、主に当期及び前期における新設店舗が稼動したことにより販売増となりました。
売上総利益は、153,571百万円(前期比512百万円増)となりました。売上高対比では22.0%となり前期に比べて横ばいとなりました。

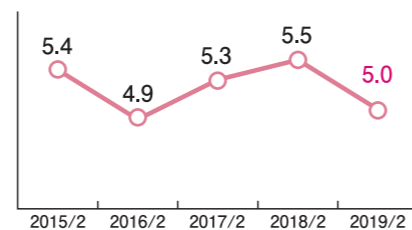
2 経常利益 350.9 億円 前期比 ▶ 91.9%

営業外収益は、前期比44百万円(2.8%)減少の1,518百万円となりました。一方、営業外費用は、支払利息の減少等により前期比148百万円(8.1%)減少の1,692百万円となりました。
これらの結果、経常利益は前期比3,108百万円(8.1%)減少の35,099百万円となりました。売上高対比は5.0%と前期に比べて0.5ポイント低下しました。

3 親会社株主に帰属する当期純利益 234.8 億円 前期比 ▶ 87.2%

親会社株主に帰属する当期純利益は前期比3,443百万円(12.8%)減少の23,488百万円となりました。売上高対比は3.4%と前期に比べて0.5ポイント低下しました。

■ 経常利益率の推移 (単位:%)



[連結] キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	前 期 2017.3.1~2018.2.28	当 期 2018.3.1~2019.2.28
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	39,204	33,495
減価償却費	16,171	15,862
減損損失	597	654
災害損失	197	360
固定資産除却損	464	313
売上債権の増減額(△は増加)	△ 3,598	△ 2,539
補助金の受取額	1,656	112
保険金の受取額	5	309
災害損失の支払額	△ 2,074	△ 186
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△ 11,547	△ 13,887
その他	1,514	△ 852
営業活動によるキャッシュ・フロー	42,592	33,642
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△ 27,053	△ 17,378
無形固定資産の取得による支出	△ 950	△ 1,498
その他	△ 1,063	△ 224
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 29,067	△ 19,101
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長短借入金の増減	△ 10,353	△ 8,945
自己株式の取得による支出	△ 6	△ 6
配当金の支払額	△ 4,872	△ 5,732
その他	△ 244	△ 108
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 15,477	△ 14,793
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,952	△ 252
現金及び現金同等物の期首残高	10,342	8,389
現金及び現金同等物の期末残高	8,389	8,136

[連結] 株主資本等変動計算書

単位:百万円

	株主資本					その他の包括利益累計額	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	合 計			
当期首残高	19,613	22,247	139,951	△ 18	181,795	1,161	11,894	194,851
当期変動額								
剰余金の配当			△ 5,732		△ 5,732			△ 5,732
親会社株主に帰属する当期純利益			23,488		23,488			23,488
自己株式の取得				△ 6	△ 6			△ 6
連結範囲の変動			0		0			0
持分法の適用範囲の変動			△ 177		△ 177			△ 177
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 632	△ 245	△ 877
当期変動額合計	—	—	17,579	△ 6	17,572	△ 632	△ 245	16,695
当期末残高	19,613	22,247	157,530	△ 25	199,367	529	11,649	211,546

営業活動によるキャッシュ・フロー 336 億円の収入

・主な収入項目は、税金等調整前当期純利益33,495百万円及び減価償却費15,862百万円です。
・主な支出項目は、法人税等の支払額13,887百万円、仕入債務の減少額3,373百万円及び売上債権の増加額2,539百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フロー 191 億円の支出

・主な支出項目は、有形固定資産の取得による支出17,378百万円です。これは主に、店舗新設等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー 147 億円の支出

・主な収入項目は、長期借入れによる収入19,500百万円です。
・主な支出項目は、長期借入金の返済による支出29,521百万円及び配当金の支払額5,732百万円です。

単体財務諸表

[単体] 貸借対照表

単位:百万円

(資産の部)	前期	当期	(負債の部)	前期	当期
	2018.2.28	2019.2.28		2018.2.28	2019.2.28
流動資産	60,319	77,443	流動負債	100,692	103,395
現金及び預金	3,091	3,386	買掛金	25,643	26,333
売掛金	12,718	13,055	短期借入金	32,632	34,040
商品	24,461	24,716	1年内返済予定の長期借入金	15,845	15,573
原材料及び貯蔵品	274	335	リース債務	6	3
前払費用	785	808	未払金	7,870	10,492
繰延税金資産	2,068	1,848	未払費用	1,614	1,718
短期貸付金	12,896	28,229	未払法人税等	7,250	3,855
預け金	1,078	1,272	未払消費税等	860	1,932
その他	3,015	3,856	前受金	1,510	1,516
貸倒引当金	△ 71	△ 67	預り金	1,363	1,496
固定資産	331,746	336,907	賞与引当金	1,585	1,678
有形固定資産	282,099	287,474	役員賞与引当金	2	2
建物	140,298	140,756	ポイント引当金	2,357	2,479
構築物	5,693	5,490	商品券回収損失引当金	145	166
機械及び装置	2,239	2,525	資産除去債務	—	130
車両運搬具	0	0	その他	2,002	1,973
工具、器具及び備品	5,089	5,194	固定負債	139,538	144,849
土地	128,354	132,179	長期借入金	101,871	105,797
リース資産	17	11	リース債務	12	9
建設仮勘定	407	1,317	長期預り敷金及び保証金	22,780	23,031
無形固定資産	6,416	6,280	退職給付引当金	6,085	6,646
借地権	4,102	4,232	役員退職慰労引当金	1,563	2,062
ソフトウェア	1,400	1,256	資産除去債務	7,099	7,199
その他	913	792	その他	125	101
投資その他の資産	43,230	43,152	負債合計	240,231	248,244
投資有価証券	2,839	2,246			
関係会社株式	11,289	11,953			
出資金	4	4			
関係会社出資金	938	—			
長期貸付金	1,476	1,437	(純資産の部)		
長期前払費用	612	525	株主資本	150,868	165,595
繰延税金資産	4,266	4,820	資本金	19,613	19,613
出店仮勘定	208	288	資本剰余金	22,282	22,282
差入敷金及び保証金	19,097	18,466	利益剰余金	108,990	123,724
その他	2,797	3,707	自己株式	△ 18	△ 25
貸倒引当金	△ 299	△ 297	評価・換算差額等	966	510
資産合計	392,065	414,350	純資産合計	151,834	166,105
			負債純資産合計	392,065	414,350

新規出店と閉店

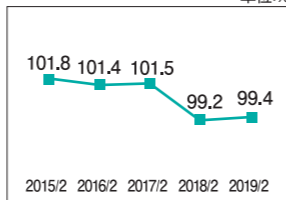
期末店舗数	112店舗
新設	6店舗
閉店	4店舗

既存店売上高前年比

既存店売上高前年比	99.4%
客数前年比	98.8%
客単価前年比	101.0%

既存店売上高前年比

単位:%



[単体] 損益計算書

単位:百万円

	前期	当期
	2017.3.1~2018.2.28	2018.3.1~2019.2.28
営業収益	683,850	686,991
売上高	652,669	655,328
売上原価	531,654	532,522
売上総利益	121,014	122,806
営業収入	31,181	31,663
営業総利益	152,195	154,469
販売費及び一般管理費	120,178	125,328
営業利益	32,017	29,141
営業外収益	1,424	1,395
受取利息及び受取配当金	351	378
仕入割引	299	299
債務勘定整理益	130	108
違約金収入	163	190
その他	479	418
営業外費用	1,523	1,358
支払利息	1,045	898
支払補償費	159	160
その他	317	300
経常利益	31,918	29,177
特別利益	2,126	1,371
固定資産売却益	464	39
投資有価証券売却益	4	—
補助金収入	1,656	1,112
保険金収入	—	220
特別損失	685	1,744
固定資産売却損	8	—
固定資産除却損	207	234
減損損失	361	254
災害による損失	107	278
復興寄付金	—	450
出資金評価損	—	505
その他	0	21
税引前当期純利益	33,359	28,804
法人税等	9,988	8,338
当期純利益	23,370	20,466

[単体] 株主資本等変動計算書

単位:百万円

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	合計		
当期首残高	19,613	22,282	108,990	△ 18	150,868	966	151,834
当期変動額	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	△ 5,732	—	△ 5,732	—	△ 5,732
当期純利益	—	—	20,466	—	20,466	—	20,466
特別償却準備金の取崩	—	—	—	—	—	—	—
固定資産圧縮積立金の取崩	—	—	—	—	—	—	—
固定資産圧縮積立金の積立	—	—	—	—	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	△ 6	△ 6	—	△ 6
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 456	△ 456
当期変動額合計	—	—	14,734	△ 6	14,727	△ 456	14,271
当期末残高	19,613	22,282	123,724	△ 25	165,595	510	166,105

営業収益

6,869 億円 前期比 100.5%

経常利益

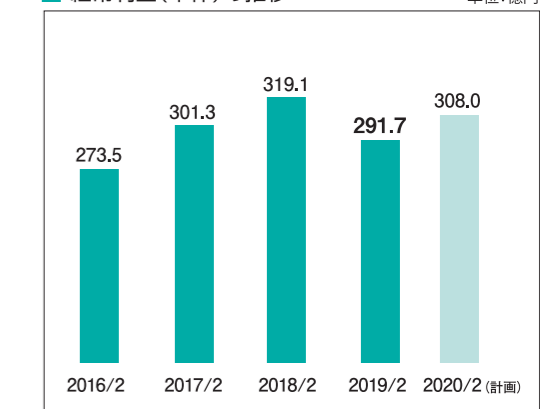
291.7 億円 前期比 91.4%

当期純利益

204.6 億円 前期比 87.6%

経常利益(単体)の推移

単位:億円



■ 会社概要

(2019年2月28日現在)

設立年月日 1961年10月27日
 本社所在地 広島市東区二葉の里三丁目3番1号
 TEL 082-264-3211(代)
 資本金 19,613,856,196円
 従業員 正社員 2,723名
 パートタイマー 6,147名(1日8時間換算)
 店舗数 112店舗(エクセル単独店舗10店舗含む)

■ 中国地方 64店

広島県 33店 岡山県 11店
 山口県 13店 島根県 7店

■ 九州地方 35店

福岡県 19店 佐賀県 3店
 大分県 2店 長崎県 2店
 熊本県 9店

■ その他 13店

香川県 4店 兵庫県 3店
 徳島県 1店 その他 5店

■ 役員一覧

(2019年2月28日現在)

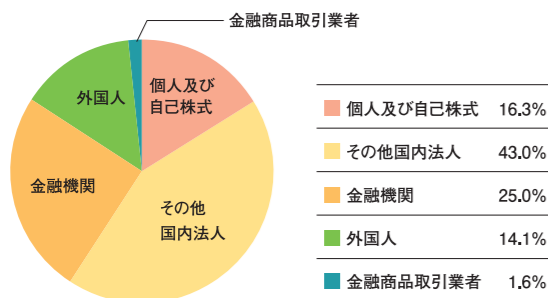
取締役会長 山西 義政
 代表取締役社長 山西 泰明
 専務取締役 梶原 雄一朗
 専務取締役 三家本 達也
 取締役 中村 豊三
 取締役 本田 雅彦
 取締役 似鳥 昭雄
 取締役 米田 邦彦
 常勤監査役 川本 邦昭
 監査役 松原 治郎
 監査役 通堂 泰幸

■ 株式の状況

(2019年2月28日現在)

発行可能株式総数 195,243,000株
 発行済株式の総数 71,665,200株
 株主数 5,049名
 1単元の株式数 100株

■ 単元株式の所有状況



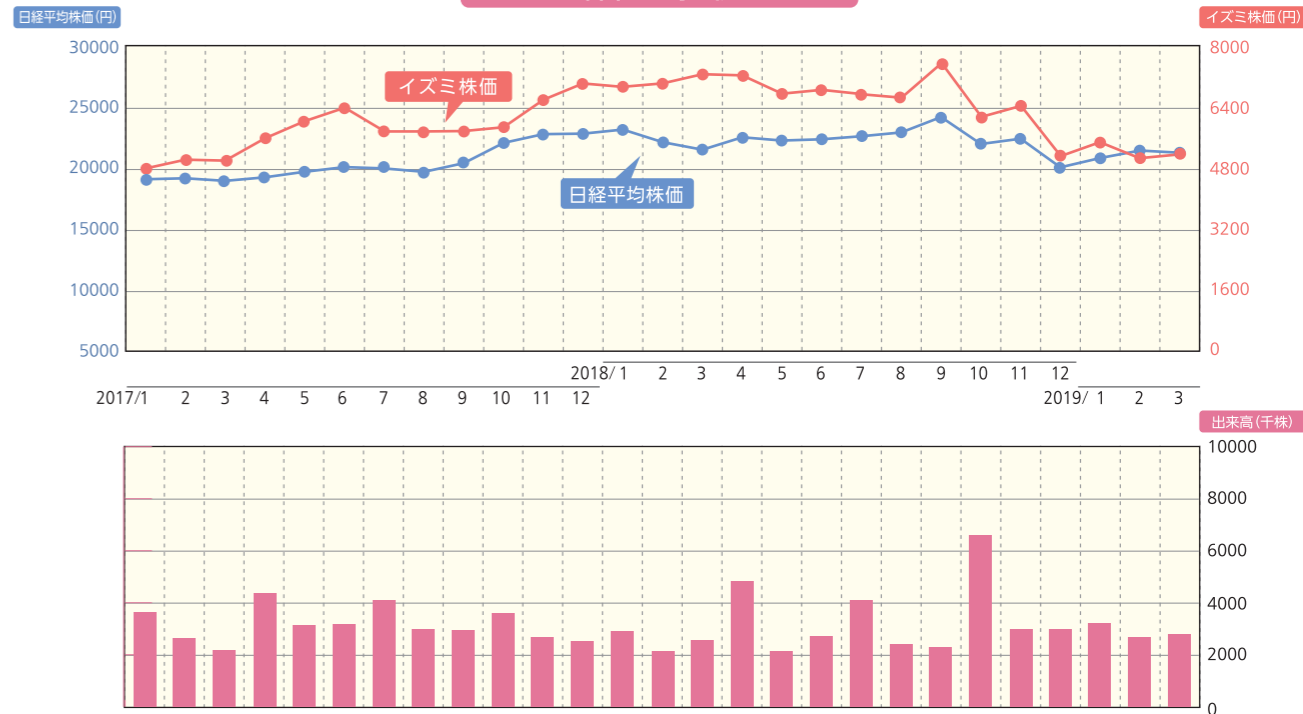
■ 大株主の状況

(2019年2月28日現在)

株主名	持株数	持株比率
山西ワールド(株)	19,935千株	27.8%
第一不動産(株)	4,208千株	5.9%
日本スタートラスト信託銀行(株)(信託口)	2,951千株	4.1%
(株)広島銀行	2,362千株	3.3%
日本生命保険(相)	2,093千株	2.9%
イズミ広島共栄会	2,060千株	2.9%
山西 泰明	2,036千株	2.8%
第一生命保険(株)	2,030千株	2.8%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,522千株	2.1%
全国共済農業協同組合連合会	1,335千株	1.9%

(注)持株比率は、自己株式(6,700株)を控除して計算しています。

■ 株価の推移



■ 株主優待制度

■ 株主ご優待券またはギフト券(選択制)

毎年2月末日および8月31日現在、当社株式100株以上ご所有の株主の皆様に対して、「株主ご優待券」か「ギフト券」をお選びいただき、ご所有株式数に応じて以下のとおりお贈りいたします。

ご所有株式数	株主ご優待券	ギフト券
100株以上	20枚 (2,000円相当)	500円相当
200株以上	30枚 (3,000円相当)	
300株以上	40枚 (4,000円相当)	
400株以上	50枚 (5,000円相当)	
500株以上	60枚 (6,000円相当)	
1,000株以上	100枚 (10,000円相当)	2,000円相当
2,000株以上	200枚 (20,000円相当)	
3,000株以上	300枚 (30,000円相当)	
4,000株以上	400枚 (40,000円相当)	
5,000株以上	500枚 (50,000円相当)	
6,000株以上	600枚 (60,000円相当)	2,000円相当
8,000株以上	800枚 (80,000円相当)	
10,000株以上	1,000枚(100,000円相当)	

※「株主ご優待券」は、1千円以上のお買上につき、1千円ごとに各1枚(100円割引券)をご使用いただけます。

■ 長期保有特典制度

毎年2月末日時点で、当社株式を2年以上継続して保有され、かつ毎年2月末日時点で300株以上保有の株主様に、現行の優待制度(選択制)に応じて、「自社商品券」または「ギフト券」のいずれかを[年1回]贈呈いたします。

ご所有株式数	自社商品券 ^{※1}	ギフト券 ^{※2}
	現行制度に株主優待券をお選びの株主様	現行制度にギフト券をお選びの株主様
300株以上	2,000円相当	500円相当
1,000株以上	4,000円相当	1,000円相当

※1「自社商品券」は、ゆめタウン、ゆめマート、ゆめシティ、LECTの各店舗、(株)ユアーズ、(株)デイリーマート、岡山ロッツ、(有)はなわの店舗等でご利用いただけます。専門店によっては一部ご利用できない店舗がございます。

※2「ギフト券」は全国でご利用いただけるものを贈呈いたします。

■ 泉美術館ご招待券の贈呈

2019年2月28日現在で当社株式を1単元以上ご所有の株主の皆様へ「泉美術館ご招待券」を贈呈させていただきます。

公益財団法人

泉美術館



■ 開館時間 午前10時から午後5時(入館は午後4時30分まで)
 ■ 休館日 月曜日(祝日は開館)、年末年始
 ※展示替えによる臨時休館あり
 ■ 住所 〒733-0833 広島市西区商工センター2丁目3番1号エクセル5階
 TEL (082) 276-2600
 ■ ホームページ <http://www.izumi-museum.jp/>

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会 毎年2月末日 期末配当金 毎年2月末日 中間配当金 毎年8月31日
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
[郵便物送付先] (**)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

[電話照会先] (**)

☎ 0120-782-031

(**)2013年1月より郵便物送付先・電話照会先が上記のとおり変更となっております。

インターネットホームページアドレス

<https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

■ 株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

■ 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいますが)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

■ マイナンバー制度に関するお手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。

【株式関係事務におけるマイナンバーの利用目的】

法令に定められたとおり、支払調書に株主様のマイナンバーを記載し、税務署に提出いたします。このため、株主様からお取引のある証券会社等へ、以下のとおりマイナンバーを届出いただく必要がございます。

●証券会社の口座で株式を管理されている株主様

お取引の証券会社までお問い合わせください。

●証券会社とお取引がない株主様

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部(上記記載)までお問い合わせください。